

## 高祖山登山

高祖山登山には、東側（福岡市西区今宿）からは叶岳（標高 341m）、高地（標高 419.4 m）経由高祖山（標高 416.1m）コースがある。また、東側のコースには、今宿野外活動センターから鉢伏観音堂経由して高祖山への鉢伏山観音コース、今宿野外活動センターから三角谷経由で高祖山への三角谷コースがある。これらのコースは高祖山へは高祖山・自然観察路までほとんど沢登り（センター方面へは沢下り）である。もう一つのコースである今宿野外活動センターから吉野谷を経由して高祖山へ行く吉野谷コースも沢登り（沢下り）である。西側（糸島市高祖）からは高祖神社（糸島市高祖）から一ノ坂礎石群を経由して高祖山へ行くコースである。西側からはいくつかのコースがあるが、それについては「糸島の山歩き（高祖山編）」を参照していただきたい。前述のように、これらのことを参考にして高祖山登山していただきたい。ここでは、東側からコースのうち、鉢伏山観音コースの沢登りと、三角谷コースの沢下りのマップを示している。

高祖山の西側の広い斜面から続く山頂は怡土城址で中国式の古代山城である。築城期間は 756(天平勝宝 8)年 6 月～768（神護景雲 2）年 2 月で、築城担当者は吉備真備[きびのまきび：695（持統 9）年～775（宝亀 6）年、奈良時代の学者、官僚。717（養老 1）年に留学生として入唐、滞在 19 年。735（天平 7）年帰国、唐礼・大衍歴（たいえんれき）・楽器・武器などを献上している。天智天皇より特別な手厚い待遇を受けたが、740（天平 12）年に藤原広嗣の乱（広嗣が政権への不満から大宰府で挙兵したが、官軍によって鎮圧された）に際し、ともに帰国した僧玄昉（げんぼう）とともに弾劾されている。藤原仲麻呂の台頭によって筑前守・肥前守に移されたが、751（天平勝宝 3）年に遣唐副使に任じられて、再び入唐。754（天平勝宝 6）年に唐僧鑑真・法進ら 8 人を伴い帰国している。その後大宰大弑となり、怡土城を築いている]<sup>注1)</sup><sup>注2)</sup>で、途中から佐伯今毛人[さえきのいまえみし：719（養老 3）年～790（延暦 9）年、奈良時代の官僚。聖武朝（しょうむちょう）において、東大寺造営に関係している。多くの官職に就いていたが、763（天平宝子 7）年 3 月に藤原義嗣・大伴家持らと藤原仲麻呂（恵美押勝）に対する暗殺計画（恵美押勝の叛乱）を企て、発覚し解官。764（天平宝子 8）年大宰大弑となっている。775（宝亀 8）年遣唐大使に任じられたが、渡唐していない。その後多くの官職に就いているが、786（延暦 5）年皇后宮大夫民部卿、大和守を辞したが、それ以外の官職とともに大宰帥（だざいのそち）は兼任している]<sup>注3)</sup><sup>注4)</sup>により完成している。怡土城の遺構は 5 ヶ所の望楼跡、一之坂礎石群などがあり、山裾は南北約 2km にわたる土塁が確認されているとのことである<sup>注5)</sup>。怡土城の防御は当時の新羅と唐が連合して日本（倭国から日本という国名は天武天皇の時代）を攻めてくるのではという情報にもとづいて築城されたものである。

古代の山城は、怡土城築城より古い、倭国が白村江の戦い（663 年）で敗戦し、国内の防御のために大野城の百間石垣（ひゃっけんいしがき）に見るように倭国に亡命してきた百濟からの技師とともに築城した朝鮮式山城が多い。北部九州において代表的な防御施設跡

として水城、基肆城跡（きいじょうあと：鳥栖市）などがある<sup>注6</sup>。

それでは中国式山城と朝鮮式山城との違いは、怡土城跡にみるように高祖山の麓から山頂までの西側斜面一帯に存在し、そこには土塁・石塁・門礎石・望楼跡が施されていて、その中に田畑が含まれている。朝鮮式山城は大野城跡や基肆城跡などのように山の横一周に土塁・石塁が構築されている。このような違いがあるが、いずれにしてもわが国においては侵攻されていない。なお、わが国への初めての侵攻は刀伊の入寇[といのにゆうこう：1019（寛仁 3）年：中国東北部の女真族（刀伊）が朝鮮半島を經由して日本に侵攻]であった。

(中国式山城の一部の写真)



怡土城跡の碑



怡土城土塁跡



怡土城第五望楼跡



怡土城第五望楼跡

(朝鮮式山城の一部の写真)



大野城四王寺跡の碑



大野城跡の土塁



大野城跡の百間石垣



基肆城跡の碑



基肆城跡にある天智天皇



鞠智城公園の駐車場



鞠智城内米蔵の礎石



鞠智城の深迫門跡

(白村江に戦いとの関係：斉明天皇の遺構)



朝倉橋広庭宮跡 (斉明天皇が亡くなった場所)



御陵山 (恵蘇八幡宮 1・2号墳)



斉明天皇の殯（もがり）の場所といわれている御陵山（古墳）：木の丸殿

中世の高祖山の山頂は上ノ城（本丸）、その下は下ノ城（二ノ丸）で、怡土城と重複遺構である。本丸は東西 13m、南北 61mほどで、二ノ丸は二段からなり、東西 15m、南北 53mほどで、石塁や空堀が存在している。1249（建長元）年に原田種次が廢墟となっていた怡土城の一部を利用して高祖山城を築き、230 余年間続いた。1586（天正 14）年の豊臣秀吉の九州平定の際に島津氏に属していた原田信種だけ従わなかったので、小早川隆景の軍に攻略され落城した<sup>注7)</sup>。

この原田氏の祖先は秋月氏などと兄弟分かれの大蔵党で、漢の高祖の後裔孫（こうえいそん：子子孫孫）阿多部王（あたべおう）が日本に帰化し、播磨の大倉に住み、その後筑前に居住していることに始まる。原田氏は安徳天皇が岩戸（現在の那珂川市）に下ってこられたとき、原田種直は平家に随ったことにより、源氏に召捕られ、鎌倉に禁獄させられている。その後、赦免となったが本国に戻ることもできず、所領も住所もなかつたため、高祖神社の社家の上原兵庫佐（うへはらひょうごのすけ）との昔の誼（よしみ）で、怡土郡三雲村に居住している。その後、直種は隣境（となりざかい）を伐取（きりと）り、ようやく武力の威勢を取り戻している。そして、伊勢山（現在の金龍寺の所）に居城をかまえ、その後高祖に移り、数十代相続し原田五郎越前守隆種（たかさね）入道了榮にいたったことになっている。了榮は家督問題が生じ、最終的に信種の子を養子としている<sup>注8)</sup>。

高祖城本丸を上城（かみのじょう）、二の丸を下城（しものじょう）と里人（さとびと：地域の人の意）は言っているということで<sup>注9)</sup>、現在の高祖山にある標識は上ノ城（かみのき）、下ノ城（しものき）である<sup>注10)</sup>。本丸および二の丸の東西南北の面積は文献によって異なるので、廣崎篤夫『福岡県の城』の高祖山城（原田城）のものを記載している。

ところで、稜線から高祖山山頂（本丸城址）・下ノ城（二の丸）に行く途中、2 つの防空壕がある。高祖山山頂近くに防空壕がなぜあるのであろうか、太平洋戦争末期の 1945（昭和 20）年 6 月 16 日の福岡大空襲と同様、爆撃機 B29 は糸島の雷山地区にも空襲があつている。この防空壕は哨戒所（敵の侵入に備えて警戒する場所）と考えられる。現在では登山道を歩いていると、この防空壕から動物のうなり声が聞こえることもあるので、注意が必要である。

注 1) 参考文献[8]の 421 頁を参照。

注 2) 参考文献[7]の 38～46 頁を参照。

注 3) 参考文献[8]の 549 頁を参照。

注 4) 参考文献[7]の 40～48 頁を参照。

注 5) 伊都遊歩道クラブ登山ルート監修『糸島の山歩き—悠久の時を感じる山歩き—（高祖山編）』糸島市商工観光課，2021 年 1 月。より

注 5) 鞠智城跡、斉明天皇に関する遺構等は、参考文献[7]を参照していただきたい。

注 7) 参考文献[2]の 261～263 頁を参照。

注 8) 参考文献[3]の 834～835 頁を参照。

注 9) 参考文献[4]の 18～19 頁を参照。

注 10) 伊都遊歩道クラブ登山ルート監修『糸島の山歩き—悠久の時を感じる山歩き— (高祖山編)』糸島市商工観光課, 2021 年 1 月. より

#### 参考文献

- [1]青柳種信編・福岡古文書を読む会校訂『筑前國續風土記拾遺 (下巻)』文献出版, 1993 年 6 月.
- [2]廣崎篤夫『福岡県の城』海鳥社, 1999 年 7 月.
- [3]貝原益軒編・伊東尾四郎校訂『増補 筑前國續風土記』文献出版, 2001 年 6 月.
- [4]加藤一純・鷹取周成共著・川添昭二校訂『筑前國續風土記付録 (下巻)』文献出版, 1978 年 4 月.
- [5]西日本文化協会編纂・福岡県史近代史料編『福岡県地理全誌 (六)』福岡県, 1995 年 3 月.
- [6]奥村玉蘭・田坂大蔵等校訂『筑前名所図会』文献出版, 1985 年 12 月.
- [7] 歴史学研究会編『日本史年表 第四版』岩波書店, 2001 年 12 月.
- [8]三省堂編修所編『コンサイス 日本人名辞典 改訂新版』三省堂, 1999 年 10 月.
- [9]内山敏典『筑紫国 (福岡県) 周辺の古代城跡からみる歴史—「まち」おこしとしての財産を活かすため—』九州産業大学, 2020 年 1 月.



(今宿野外活動センターから山頂への登山ルート：鉢伏山観音コース)



高祖山・鉢伏観音登山口：野外第一駐  
車場より 727 歩



茶畑



高祖山と能古見台の道標 (分岐)、高  
祖山方面へ：992 歩



高祖山・自然観察路と能古見台の道  
標：1530 歩



沢に架かる最初の橋：1768 歩



沢に架かる 2 番目の橋：1851 歩



鉢伏山観音堂：2097 歩：標高 191m



鉢伏山観音堂の説明板



観音堂から沢登りの途中の登山道から  
下に見える洞穴らしきもの：2981 歩



沢登り途中：3667 歩



沢を越えた登山道：3935 歩



沢を越えた登山道から高祖山自然観察路へ出  
る：4178 歩：道案内板。ここまでが鉢伏山観  
音コースといわれる沢登りのコースである。



高祖山自然観察路（高祖山登山歩道）



高祖山・下の城址方面に行く高祖山登山歩道の途中にある防空壕：4790歩



高祖山・下の城址方面に行く登山歩道



もう一つの防空壕：最初の防空壕の近く



叶嶽・下ノ城までの道標：4790歩



高祖山山山頂まで 0.1 k m の道標：  
5081歩



高祖山山頂（高祖城址）：5415 歩：標高 416m



高祖山山頂にある高祖城の説明板



高祖山山頂から可也山方面を遠望



高祖山山頂の土塁

(山頂からの今宿活動センターへの下山ルート：三角谷コース)



下ノ城址の碑：高祖山下山（5954 歩）  
からここまで 6319 歩



碑の上が二段の城址



碑の上も城址



碑の後ろの高くなっているのが切岸



高祖山自然観察路の道標：7252 歩



鉢伏観音の標識（ここでは下りず叶嶽方面へ）：  
7476 歩：これよりアップダウンの一本道で、ところどころベンチがある。



アップダウンの一本道、つづら折りの下り道の後に外活動センターと下ノ城址と叶嶽分岐の標識がある。10136 歩：ここで外活動センター方向（左）へ下る。



左に折れると「三角谷」の標識が示されている。これが三角谷コースといわれる沢下りコースである。



三角谷コース沢下りの始まり：10930 歩



三角谷コースの沢を離れる：11162 歩



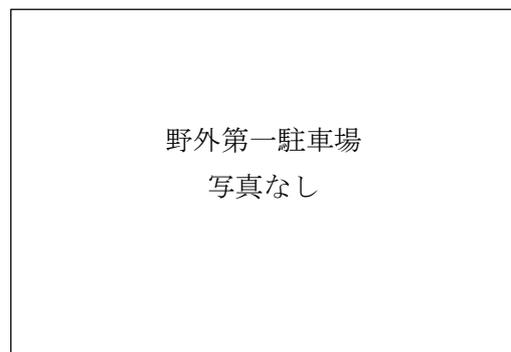
三角谷終わりから砂防ダムの下を通り  
アスファルト分岐へ：11883 歩



今宿野外活動センター入口の近く



今宿野外活動センター入口：12793 歩



野外第一駐車場  
写真なし

野外第一駐車場：13057 歩